



歴史資料の 現状記録調査とは

歴史研究所では、地域に残された歴史資料（史料）について、現状記録と呼ばれる方法で調査を行っています。その方法と意義についてご紹介します。

現状記録調査とは、史料が個人宅の土蔵や納屋、押し入れ、公共施設の倉庫などに、現在どのように所蔵されているか（史料の保存現状）を、ありのままに、詳細に記録する調査方法です。1980年代の終わりごろから提起され、各地で実践されてきました。

現状記録調査の手順

ステップ1 土蔵内での現状記録

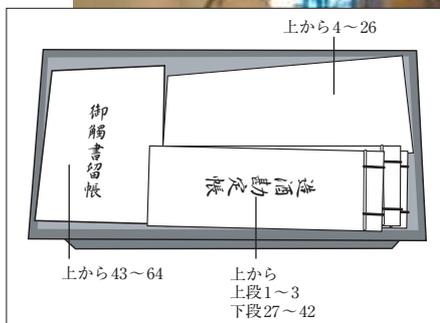
史料が土蔵などの中にどのように収蔵されているかを調べます。具体的には保存容器（棚や木箱、ダンボール箱など。「単位」と呼びます）の位置や状態などについて、スケッチと写真撮影を併用して記録し、単位ごとに番号等を与えます。収蔵者からも収蔵の経緯を可能な限り聞き取ります。単位を土蔵から運び出すのはこの作業のあとになります。



土蔵内の史料単位に記号を付けて、調査前の収蔵状態を記録する。

ステップ2 単位・組織現状記録

それぞれの単位のスケッチと採寸を行い、容器のふたを開けて、史料がどのような順番で入っているかを、ビデオで撮影しながら記録します。作業を行いながらそれぞれの史料に配置順に番号を与え、1点ずつ中性紙封筒に入れます。容器の中で、くり紐や小袋などによって、史料がさらに小さな束でまとまっている場合（「組織」と呼びます）には、ビデオで撮影しながらさらに細かく記録します。



単位・組織現状記録ビデオ撮影しながら、史料に番号を付け、記録する。

史料単位のスケッチのように史料が入っていたか、分かるように記録します。

ステップ3 史料細胞現状記録

個々の史料（「細胞」と呼びます）の形態や内容、作成年代、作成者などについて、1点も漏らさずに記録します。従来「目録」と呼ばれてきたものに含まれる情報は、この段階でカバーされます。

現状記録調査の特色と意義

現状記録調査を行う際には、内容や作成年代などで判断して史料に優劣をつけることはしません。全部記録して保存に努めます。一見今の私たちにとって歴史的価値を認めにくい史料でも、将来重要な意味を持つことがあるからです。史料をくくった紐や包み紙なども、いくら新しいものでも全部記録します。史料がどのような経緯で部屋の中に置かれ、容器に収められてきたかということ自体が、かけがえのない歴史情報なのです。また現状記録調査を行うことで、個々の史料と建造物、オーラルヒストリー情報などを、統一的にとらえることができ、地域の総合的調査を行う上できわめて役に立ちます。

現状記録調査法は、地域史研究の一番の基礎となる、大変重要な方法です。歴史研究所だけではなく、地域の皆さん自身が調査できるように、講習会なども行って、普及に努めます。また、現状記録調査の成果は、随時報告書にまとめていきます。その第1巻「森本家史料」の報告書は近刊を予定しています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

飯田下伊那地域をはじめ、日本全国の地域史研究に携わる団体・個人に参加を呼びかけ、「地域史惣寄合そうよりあい」を行います。

円座を組んで、地域史が当面する現状について情報を交換し、様子を知る機会を持つと考えています。お互いの自慢話や失敗談に耳を傾け、愚痴を言い合い、それぞれが抱える問題について認識を共有し、深めあい、かつ課題を探ろう、というのが惣寄合の目的です。

地域史に関心を寄せる多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

第一回 地域史惣寄合

▼呼びかけ団体・個人

飯田市歴史研究所 他(交渉中)

大槻 守 塚田 孝 吉田伸之

▼会期 2008年5月31日(土)～6月1日(日)

▼会場 飯田市役所りんご庁舎

▼内容

基調講演：大山喬平さん(京都大学名誉教授)

円座：各地の自治体や大学、民間の研究団体による事例報告を核に意見交換をします。

▼問い合わせ

飯田市歴史研究所

※詳細は追ってお知らせします。

飯田アカデミア 2007 飯田アカデミアは、大学の専門課程レベルの講座です。毎回歴史学を中心とした専門研究者を講師に、研究の最前線を分かりやすく講義します。

第40講座 3月15日(土)・16日(日)

近代日本思想と東アジア

講師：米谷匡史さん(東京外国語大学准教授)

ヨーロッパ列強が、「近代」「文明」の力によってアジア・アフリカを植民地化した「近代世界」。そのなかで日本は、ヨーロッパとアジアの狭間で揺れ動きながら、周辺のアジアを支配する植民地帝国として膨張してきました。そして、第1次世界戦争後には、植民地・アジアの民族自決運動によって揺さぶられながら、帝国日本はさらなる矛盾を抱え込んでいきます。

この講座では、明治期の自由民権論・啓蒙思想、大正期のデモクラシー、昭和戦前期の社会主義など、近代日本の思想の歩みを振り返りながら、それらが東アジア(主に中国・朝鮮・台湾)といかに向き合い、関わってきたのかを考えます。

■日 時 3月15日(土) 午後1時30分～5時

16日(日) 午前10時～午後2時30分

※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。

■会 場 飯田市上郷考古博物館

■定 員 各講座30人

■参加費 資料代として500円(2日間分)

■申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、歴史研究所へお申し込み下さい。

※ファクシミリまたはEメールでお申し込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記して下さい。

※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います(会費1000円)。

歴史研究活動助成

研究発表会

歴史研究所では個人や団体の歴史研究活動に対して助成を行っています。平成19年度に助成申請をしている方々による研究報告会を開催します。

平成19年度の申請研究課題

●飯田市長野原地区の歴史(小字、お日待ちまつり、金山神社誌、大井川、古墳、屋号)について研究

●日記記述から史実の検証をどのようにしたらよいか

●近世の清内路村における若者組の活動

●伊賀良地区の地名・小字調査

※当日報告を行わない研究もあります。

地域史講座 満州移民

『満州移民—飯田下伊那からのメッセージ』(飯田市歴史研究所編)の各章の執筆者が、それぞれの章を分かりやすく解説します(今回は最後の章となります)。

●「満州移民の戦後史」

講師：森武磨(顧問研究員・一橋大学教授)

■日 時 2月16日(土) 午後2時～4時

■会 場 歴史研究所

おわびと訂正

歴研ニュース31号に掲載した古代史講座「古代史料を読む」は平成19年度科学研究費補助金：学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生」との共催で行うものでしたが、共催が記載されていませんでした。おわびして訂正します。

■日 時 3月8日(土) 午後1時30分～4時

■場 所 飯田市上郷公民館103号会議室

※事前申し込み不要

細一くながく これからも

Y.Sさん（歴研現代史ゼミ）

きっかけは、およそ20年前の人形劇カーニバル10周年国際フェスティバル。私とMさんとの出会いも。開催前年に市の広報に公民館主催の通訳ボランティア養成講座の案内が載り、私のような即戦力には程遠い初級者クラスも開かれた。本番では日本語ばかりだったが、「いつかはもっと！」と翌年からは皆で自主講座として続けた。私の家族は転勤のため途中8年間愛知県に住み離れざるを得なかったし、他のメンバーも多く入れ替わったが、いつも元気で前向きのMさんを中心に講座は「細一くながく」をモットーに続き、その後帰飯した私

を再び迎え入れてくれた。惜しくも講座は19年後休止となってしまったが、市の広報で歴史研究所が英語の文献を使うゼミを始めることを知った。

難解な文章は翻訳をしてさえさっぱり分からないものの、休まずついていくことにした。当然Mさんも一緒だ。ところが彼女は最近仕事や家庭の都合であまり出席できない。その分は20年のお礼のつもりで資料を届け、彼女の都合の良い時に復習も兼ね読み合わせをしている。地元のことは彼女から教わる。今まで全く縁のなかった新聞用語にちょっとだけ目が向くようになり、地元のニュースには親しみを感じるようになってきた。学ぶことは面白い、いつかちゃんと自分たちの意見を話せるように、これからもずっと。

『満州移民』が「平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞」を受賞しました

昨年発刊された『満州移民－飯田下伊那からのメッセージ』が、「第13回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞」を受け、12月7日東京で授賞式がありました。

平和・協同ジャーナリスト基金は、反核・平和、人々の協同・連携、人権擁護などを推進するための報道に寄与したジャーナリストらを顕彰するために、市民の寄金によって1995年に設立された団体です。13回目となる今回、『満州移民』が受賞しました。



賞状と副賞の楕

授賞理由は、「全国一多くの移民を送り出した当地方の歴史を明らかにしている。帰国者からの聞き取りを市民運動の形で進め、本へ収録していることに敬服する。満州移民について学ぶ上でバイブルとなるだろう。」というものでした。

本書は、1920年代から戦後にいたるまでの長期間の流れのなかで、満州移民を通して地域の歴史を考えようとする本です。今回の受賞を通じて、本書がより多くの皆さんの目に触れ、若い世代に平和の大切さを伝えていくことができれば、大変うれしく思います。



『満州移民
飯田下伊那からのメッセージ』
B6判 269頁
定価：1,200円（本体価格）
編集：飯田市歴史研究所
発行：現代史料出版
販売所：歴史研究所、飯田市役所行政資料コーナー
※全国の書店でもお買い求めいただけます。

歴研ゼミだより

12月・1月の内容

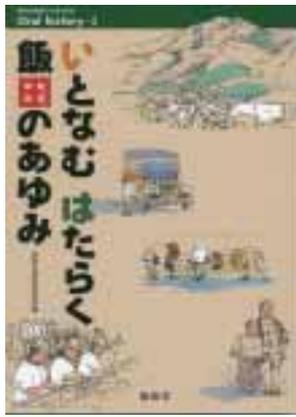
参加者の皆さんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史ゼミ 近世下伊那の民衆生活史	近現代史ゼミ 地域社会史入門－飯田町の記憶を探る－	現代史ゼミ 地域社会とグローバリゼーション
<p>■開催日 隔週火曜日 ■時 間 午後7時～8時40分 ■担 当 多和田雅保（研究員）</p> <p>12月11日 浪士通行に付諸事役歩調 1月8日 明島村の被官騒動 1月22日 多葉粉・油種問屋新設触</p>	<p>■開催日 隔週木曜日 ■時 間 午後7時～8時40分 ■担 当 田中雅孝（調査研究員）</p> <p>12月13日 胡桃澤日記復刻書式検討 1月10日 清水迪夫さんによる「青年運動と胡桃澤盛」のレクチャー 1月24日 聞き書き報告</p>	<p>■開催日 隔週水曜日 ■時 間 午後7時～8時40分 ■担 当 鬼塚 博（研究員）</p> <p>12月12日 長野県各地域の人口の推移について 1月9日 長野県における米の生産について 1月23日 南塚信吾『世界史なんていらない？』読書会</p>

※各ゼミでは随時受講生を受け入れています。ゼミの日程は4頁催事スケジュールをご覧ください。



飯田市制 70周年記念



オーラルヒストリー 1

『いとなむ はたらく 飯田のあゆみ』

飯田で長年にわたり暮らしを営み、働いてきた8人の市民の方々に、ご自身の体験、昔の地域の様子、日々の思いなどをお聞きしました。飯田の行政・産業・生活のあゆみが鮮やかに映し出されています。

B5判 並製264頁
定価1155円[本体1100+税]

【目次】

- ・大火と水害を乗り越えて
・市民の健康を願って
・三穂の農村に生きる
・製糸業のうつりかわり
・地域企業としてあゆむ
・果樹農園を営んで
・飯田遊郭の風俗

販売所 歴史研究所、市役所行政資料コーナー、市内書店
※詳細はお問い合わせください。

問い合わせ 飯田市歴史研究所
☎0265-53-4670

歴研日誌

12月

- 2日 世界史研究所で研究報告(本島和人調査研究員)
■6日 北斎館講演「小布施における六斎市のしくみ」(多和田雅保研究員) / 平谷村役場史料借用調査
■6~7日 本棟造建造物調査(龍江・上郷)
■7日 『満州移民』平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞授賞式
■8日 地域史講座⑦「満州移民②」
■11日 近世史ゼミ / 羽場曙友会史料借用調査(~24日)
■12日 現代史ゼミ
■13日 近現代史ゼミ
■15日 山口ゼミ参加(立教大・多和田研究員)
■15~16日 飯田アカデミア第38講座「フランス革命に刻まれた民衆の思い」(講師:近江吉明さん・専修大学教授)
■18~19日 旧南信濃村役場文書調査
■20~28日 学童疎開史料調査
■27日 座光寺麻績史料館所蔵史料調査

1月

- 8日 近世史ゼミ
■9日 東京文化財研究所佐野保存科学研究室長の調査・指導 / 現代史ゼミ
■9~10日 建造物調査(上郷・松尾)
■10日 座光寺麻績史料館所蔵史料調査 / 近現代史ゼミ / 任期付研究員募集(~29日)
■12日 地域史講座⑧「満州移民③」
■16日 泰阜村史料所在調査
■16~19日 本棟造建造物調査(山本・上郷・松尾)
■17日 下伊那農業高校「満州移民」講演(鬼塚研究員)
■19~20日 飯田アカデミア第39講座「世界経済の中での農業保護政策」(講師:森建資さん・東京大学教授)
■22日 近世史ゼミ
■23日 座光寺麻績史料館所蔵史料調査 / 現代史ゼミ
■24日 本棟造建造物調査(松尾) / 座光寺麻績史料館所蔵史料調査 / 近現代史ゼミ
■25日 座光寺地区史料学習会 / JET Program 講師への講演「飯田下伊那の歴史」 / 第2期中期計画(案)への市民意見公募(~2/25)
■26日 講座「古代の史料を読む」①
■30日 本棟造建造物調査(松尾)

■継続調査 部奈一朗氏所蔵史料、森本家(大森本)史料、北原嘉雄氏所蔵史料、市瀬繁文書、岡田昭夫氏所蔵史料、三穂小学校移管史料、今村和貴氏所蔵史料、飯田市非現用文書

2月・3月の催事スケジュール

Table with columns for 2月, 2008, and 3月. Rows show dates and events like '講座「古代の史料を読む」②', '近世史ゼミ', '現代史ゼミ', '研究助成報告会', 'アカデミア'.

開所日 開所時間 午前9時~午後5時
休所日 休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日~1月3日